

## 令和元年度 順天寮事業報告

救護施設は、生活保護受給者であって居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行うことを目的とした施設であり、順天寮は、①利用者の人権尊重、②清潔で潤いのある施設、③質の高いサービス、④地域福祉への貢献を基本方針として、事業を行っています。

令和元年度は、主に以下の取り組みを行いました。

- (1) 入所定員 60 人に対して、年間平均入所者数は 65.5 人と、施設を最大限に生かして入所需要に対応しました。また通所・訪問事業の年間平均利用者数は、前年度の 5.4 人から若干減少し 4.4 人となりました。
- (2) 入所生活からの自立に向けた居宅生活訓練や就労訓練は順天寮の中核事業と位置付けて取り組んでいるほか、生活困窮者自立支援法に基づく生活困窮者就労訓練、触法者の自立準備を支援する「自立準備ホーム」の実施など、就労・自立への流れに力を入れてきました。
- (3) より適切で高度な福祉サービスを提供する事業者を目指して、第三者機関による評価を受審しました。評価結果は、今後の運営方針や改善策に生かします。
- (4) 居室の洋室化・エアコン設置や、赤い羽根共同募金を活用した自動車配備など、利用者の生活・就労訓練環境を向上させるとともに、節電・節水等による経費削減を進めました。
- (5) 中長期計画に基く目標管理や、各専門職を横断した委員会活動などにより、組織強化と人材育成を図りました。

これらの結果、70 人弱の要支援者の安定した暮らしを支えるとともに、3 人の方の自立に向けた道筋をつけるなど、救護施設の責務を果たすことができました。また経營的には、当期資金収支差額合計は、1,000 万円の施設整備等積立金の積み立てを行ったうえで 1,600 万円を超える黒字を計上することができました。

引き続き、組織・施設の機能強化を図りながら、安定した経営と地域福祉の向上に努めてまいります。

## 令和元年度 指定共同生活援助事業所事業報告

平成 29 年 8 月に定員 4 人のグループホーム「南天」を開所し、2 年 8 か月が経過したところです。主に順天寮で居宅生活訓練を修了した方々が共同で社会生活を営むためのグループホームで、食事や金銭管理などの生活援助を行うとともに、利用者の多くは、順天寮の通所事業を併せて利用しており、両事業の連携により地域での自立を支援しています。

令和元年度は、年間平均利用者が 3.8 人で、前年度の 3.7 人を上回り、概ね空室がない安定的な運営となっています。

設備としては、外階段への手すり設置、駐輪場の整備など、より安全で利便性のあるグループホームとなるよう整備を実施しました。

経営面では、安定した入居状況による 640 万円の収入に対して、支出は順天寮会計への 50 万円の繰り戻しを加えても 550 万円に収まり、93 万円の黒字を計上することができました。

平成 29 年度に救護施設順天寮会計から繰り入れた 300 万円に対して、平成 30 年度、令和元年度で 50 万円ずつ繰り戻し、残額は 200 万円となりました。また、当期末支払資金残高は 430 万円余となっています。